

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4372601148
法人名	医療法人 永田会
事業所名	グループホームげんきの家
訪問調査日	平成 20 年 2 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4372601148		
法人名	医療法人永田会		
事業所名	グループホームげんきの家		
所在地 (電話番号)	869-1107 熊本県菊池郡菊陽町辛川1923番地1 (電話) 096-232-6602		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成20年2月6日	評価確定日	3月26日

【情報提供票より】(19年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 24 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	18

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造平屋 造り	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費等約19,000円	
敷金	有(円)	有りの場合	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	16名	男性	3名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東熊本第二病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の上に「さくら」「あんず」がそれぞれに立地された2ユニットで、それぞれのユニットは利用者の個性を大切に支援されており、それぞれの特徴がみられました。5年目の事業所で入居年数も永いが利用者が多いにもかかわらず、利用者の笑顔と活気、生活動作の維持は介護の質の高さの裏づけです。個別介護計画、実施、評価、記録も工夫され利用者の生活がよく見えました。事業所が大きな地域資源になられることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	生活環境の整備を改善課題とされ四季折々の生活感を重視しながら、清潔で暖かみがある環境整備がなされていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で一人一人評価し、その結果を検討したので、新たな気づきや改善すべきことが共有でき、すでに改善に取り組み意欲的でした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催され、院長、事務長も参加し検討されたことを運営に活かすシステムが構築されていました。運営推進会議のメンバーの協力で各地域のサロン活動に参加できるようになっていました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見、苦情は面会時や電話でその都度対応されています。その結果を全職員で共有しホーム長が確認するシステムが構築されていました。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地条件からして地域の方々が気軽に日常的に訪問できる場所ではありませんが、地域ボランティアの協力で地域のサロンに参加されたり、イベントボランティアを数多く活用されています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2ユニットそれぞれの利用者の違いがあり、自然環境を楽しみながら生活できることを理念とされている。	○	2ユニットそれぞれのユニット毎の理念の違いがあるようなのでその人らしさをいかしたさらなる取り組みを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	発足時の主なる職員が検討されて理念はつくられている。月1回のホーム会で問題が発生した時は理念に立ち返り話しあいが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアの方が引き金となり、利用者の出身地である地域のサロンに参加するよう始められたばかり。	○	立地条件が、気軽に訪問できる場所でないので、事業所から地域へ出る方向や、地域の方々が訪問できる支援を工夫して下さい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員みんなで一人一人考えたことが勉強になりスタッフの気づきが新しい気付きになり今まで出来なかった書類等の整理にも繋がっている。	○	一つ一つ始めたいことが増えたとのこと、質の向上に繋がることが期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	院長、事務長、地域の方も出席され2ヶ月に1回開催されている。運営推進会議で長寿会会長の意見があり、地域のふれあいサロン参加に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場への骨折等について報告や相談がなされたり役場からも感染症等について連絡があるなど連携はとられている。また、パンフレットが町役場へ置いてある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	病状変化のときはその都度電話連絡されている。預かり金等は月1回事務と2人でチェックし家族へ報告するシステムがとられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や直接訪問時に報告されている。面会時は必ず声かけが行われ、意見・苦情があった場合は1～2ヶ月後にはホーム長がその後の結果を確認されるシステムになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みを大切にされている、入職3ヶ月までは先輩がフォローするようにされている。異動の報告等については特段されていない。	○	今後異動時は元気便りで紹介していきたいと思われている、期待します。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人プログラムで目標を立て達成するための研修を優先されている。事業所が進める研修は勤務調整が行われている。研修案内等は掲示されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック会への参加や、グループホームの交換研修が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	関わりを多く持つことで馴染みの関係を作るようにされている。	○	部屋が空いたときのショート利用や、夜間デイを前向きに検討中とのこと、より一層の馴染みの関係を構築されるの役立てて下さい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	暮らしの知恵は入居者の方が多く持たれているため、教えて頂いていることが多いとのこと。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「笑顔、押しつけない、寄り添って」をモットーにされ、まず安心させることを視点にされ、利用者本人から意向を把握するようにされたり、家族からの聞き取り等によって把握するようにされている。受持制を取ることで、本人の観察等も深く出来るようにされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	受持担当者が事業所独自の「まるごとシート」でアセスメントを行い、介護計画の作成され、家族、院長、職員等でケア会議が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居期間が長く安定した状態の利用者も多いため、見直しが延び延びになっている場合もあるだが、3ヶ月に1回モニタリングがされ定期見直しを行うように努力されている。	○	工夫され介護計画を立案されています。研究テーマとして取り組まれてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診介助等家族が出来ない時は職員が対応されている。	○	認知症のワンポイント講座の開催計画があるとのこと期待します。家族のお泊まり等も検討されることを期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が受診介助できないときは事業所により支援されている。母体が病院のため、殆どの利用者は母体病院を利用されているが、以前よりのかかりつ医を利用される方もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については入居時に確認されている。終末期のあり方は文書で説明され同意を得るようにされている。状態悪化時は母体病院での終末を迎えられているが、今後ホームでの看取りを検討中。	○	スタッフ教育を行い、自信がついた時期をみて家族の要望を踏まえ全員で方針を共有する方法が一番いいでしょう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴れ合いになりすぎてトイレの声かけ等大きな声になっていたのと反省が聞かれるが、入居者が家族になり良い関係での入居者同士でのトイレ誘導もあっている。記録の保管は事務所にて行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の趣味や生活の楽しみを大切にされ、個々人の日課表に沿って支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所はオープンで利用者の出来ることは一緒にされている。また、スタッフが調理している側で利用者からこうしたほうが良い等助言もあっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の個人浴で、お湯もその都度代えられている。また、入浴を楽しむことが出来るように入浴剤は数種類おかれている。以前は夜間入浴もされていたが、利用者の「夜入るのはきつい」といった言葉もあり、今は昼間のみ入浴されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことを見つけ出し支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節にあわせ受け持ちが計画をたてイベント的な外出支援はされているが、日常的な外出支援は不足している。	○	日常的な散歩等ができる体制づくりを構築されるといいでしょう。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみされている。また、吐き出し窓になっている部分のみ安全のため施錠されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に3~4回訓練がおこなわれている。一時避難場所は運動場と認識されている。連絡体制システムも確立されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックされている。給食担当者が利用者の意向を確認されメニュー作りがされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのときの利用者の状態に合わせてソファの配置換え等がおこなわれている。また、前々回の評価で指摘された雑然とした室内空間を整備され居心地により空間作りに努力されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々人に合わせて家族と相談しながら、居室作りや工夫がされている。		